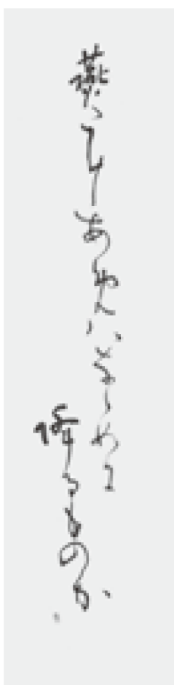


(助教以下の部)



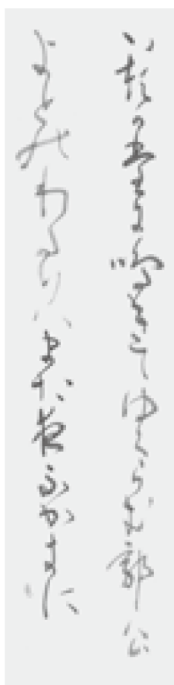
気負いなく、優しい作。

海野雨泉



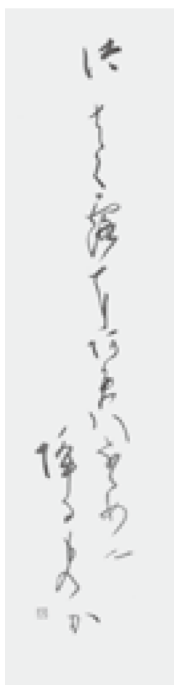
引き締まった線で秀逸。

岡本香華



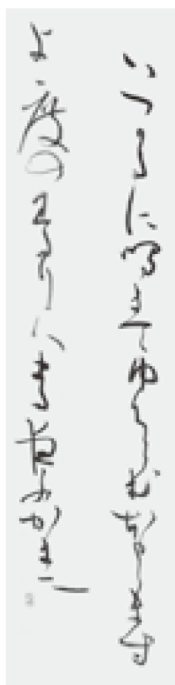
福やかで、ほっとする作。

伊丹日出美



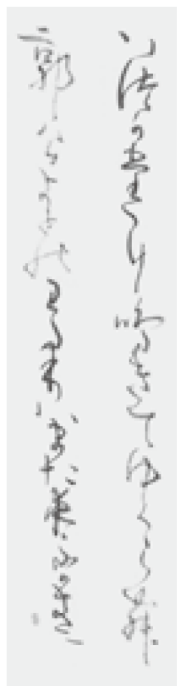
緊張感のある線で個性的。

江川翠梢



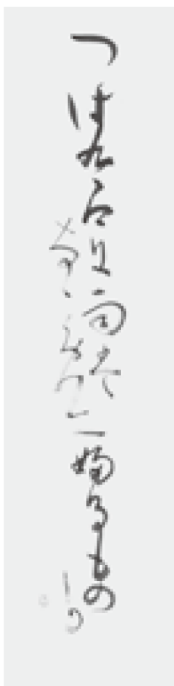
手慣れた作風で趣がある。

吉村花耀



渴筆が効果的で線質良し。

小根田暁雲



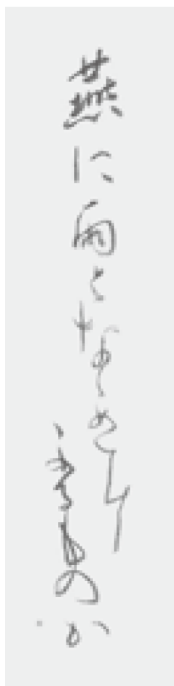
大胆で意欲的な作。

藤原みやび



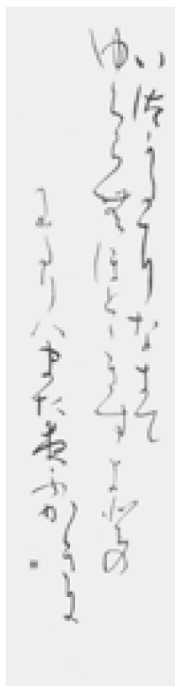
素直な書きぶりで大らかな作。

松本朋子



大らかな書きぶりに圧倒される。

森弘子



三行を丁寧にもとめて成功している。

渡辺祐実

かな部

長谷川 露香

奈良時代に万葉仮名が普及し漢字から仮名の前身「草仮名」が生まれ、更に簡略化されて仮名が平安初期に成立し百年かけて成熟。源氏物語が書かれた千年頃には優美な仮名が、すでに存在していました。

細い糸がもつれるような仮名の姿。流麗な曲線美を生かした連綿の字形に日本人の美意識が反映されていると言われています。

かな部 条幅課題

A 夏草やしげみがなかにうつむける

釣鐘草のよそよそしさよ

(木下利玄)

夏草の茂みの中につむいで咲いている釣鐘草の、可憐ではあるが、心を寄せる私によそよそしいことよ。

B をさなごのひとさしゆびにかかる虹

(日野草城)

雨後、真つ先に虹を見つけた小さな子供が示す指の先に淡い虹が見られる。

(しめきり)……七月十七日)

◎条幅出品券を作品の右下へ必ず貼付すること。

なお、作品の裏右下に段位、氏名を忘れず記入のこと。

(選評)

師範・準師範の部

穂波君 丁寧な運筆で字に表情がある。

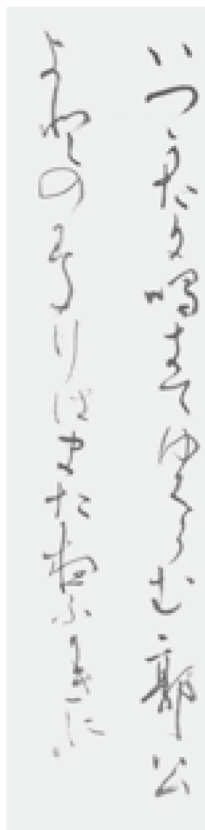
美華君 引き締まった線質で見事。字間に変化を。

紫帆君 穏やかな書きぶりで、気品あり。

珠房君 穂先を立て、くい込んだ線。「耳」の使い方に注意。

琿麗君 気負いなく、淡々と書いている。

※五段以上の方はA・Bの両方同時に出品できます。(一月締切分より)



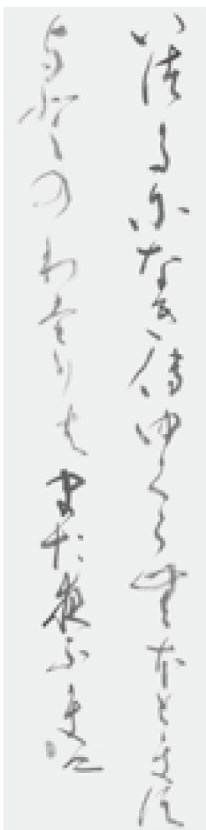
永田琿麗



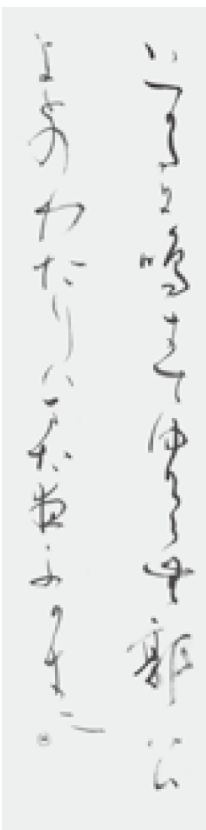
森川珠房



平田紫帆



佐藤美華



竹内穂波